

議事：「担い手不足の解消」や「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて

前回の地域福祉専門会議において、「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」において重点的に取り組むべきことについて2班に分かれて議論いただき、「担い手不足の解消」、「ゆるやかなつながりづくり」を主なテーマにご意見をいただきました。

いずれも重要なテーマであり、これまでも専門会議で問題意識をもって議論いただいていた内容ですが、今回はさらに踏み込んで、その具体化に向けた効果的な取組についてご議論をお願いします。

今後の方向性としては、今回いただいた議論を踏まえて事務局で実施素案を作成し、第3回専門会議（R7.2.6）で内容の豊富化をはかり、来年度できることから実施案の具体化に取り組めます。そして、地域福祉ビジョン Ver. 3.0 の計画期間である令和9年3月までに実施結果を報告書（好事例集的なものも含む）にまとめていき、地域へ広げていきたいと考えています。

こんな取組みがあったらいいな。こうしていけば担い手が集まるのでは。もうすでにうちの地域ではこんな取組みで担い手が増えた。うちの地域ではこんなゆるやかなつながりがある。専門職として担い手になれる。うちの事業所で居場所やっています。などなどいろんなご意見をいただきましたと思います。こんなきつと無理とか躊躇せず積極的にご意見をお出してください。

例えば

- ・登下校時の子どもの見守り活動

子ども見守り隊としての活動は大変重要な取組みですが、隊に属しての活動に負担感がある方でも、登下校の時間帯に合わせて「植木の水やり」、「散歩に出る」、「買い物に出かける」などを行えば日常の生活習慣の中で登下校の子どもたちを見守ることができます。そして、何かあった時に地域や学校に連絡できるゆるやかなつながりを作っておけば安心です。では、そうした取組を広げるにはどうすればよいのでしょうか。また、このような日常の活動を意識的に行うことで、地域福祉の取組につながることはないのでしょうか。

- ・本年3月に開催された「ごちゃまぜスポーツ大会」

こどもから高齢者まで、障がいがあってもなくてもみんなで楽しむ運動会として開催され、災害が発生した時、お互いに助け合う関係と目配り、気配り案じあえる間柄と心を「ゆるスポーツ」を通じて育むことをコンセプトに実施されました。

このようなコンセプトを地域のイベントに取り入れるにはどうすればよいのでしょうか。

- ・「(仮称) 居場所サミット in 住吉」の開催

地域福祉の担い手を増やし、ゆるやかなつながりを広げていくためには、地域の中に様々な主体による居場所あるいは出会いの場が自然に生まれることが必要です。現在、居場所活動に取り組まれている団体や個人に参加を呼びかけ、基調講演やパネルディスカッションなどでこれから居場所を始めたい人、居場所に参加したい人はじめ、広く区民に居場所活動の楽しさや魅力について広めていく機会を作ってみてはどうでしょうか。

積極的な議論お願いいたします。